

第34回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成29年11月1日（水） 14：00－16：00

2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、上杉委員、下村委員、
中須賀委員、中村委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、山口参事官、行松参事官、高倉参事官、
佐藤参事官、滝澤参事官

(3) 関係省庁等

経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室長	靄田 将範
総務省情報通信国際戦略局宇宙通信政策課長	翁長 久
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官	山之内 裕哉
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 H3ロケットプロジェクトマネージャ	岡田 匡史
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 新事業促進部長	松浦 直人
国立研究開発法人情報通信研究機構 ワイヤレスネットワーク総合研究センター 宇宙通信研究室長	豊嶋 守生
国立研究開発法人情報通信研究機構 電磁波研究所宇宙環境研究室長	石井 守

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) H3ロケットの開発状況について

資料1に基づきJAXAから説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○初回である一連の試験で予定回数の試験が実施できたことは安心した。

○実機型#2エンジンの試験では、定格100%の推力を出せる見通しなのか。

●その予定である。

○すでに種子島に搬入している実機型#2エンジンでは、今夏の実機型#1エンジンの試験で得られた知見等を反映しているか。

●試験結果を受け、設計・製造に反映している。

(2) 産業・科学技術基盤について

資料2-1に基づき経済産業省から、資料2-2に基づきJAXAから、資料2-3に基づきNICTから説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

■経済産業省

- 海外の事業者と世界の市場で競っていくためにも、引き続き、スピード感をもって民間への支援を行っていただきたい。
- SERVIS補助事業への公募企業が増えるよう、より一層の周知を実施いただきたい。
- SERVIS補助事業がより一層事業者側のニーズに対応した仕組みになるとよい。官と民や、部品供給側とアッセンブリ側が連携するコンセプトが重要。

■JAXA

- 今後の国際宇宙ステーション(ISS)に対する我が国の関わり方を考えるうえで、民間事業者の活用や連携についても検討いただきたい。
- ISSの暴露部は非常によい実証環境が整っており、様々な研究やビジネスをできる可能性があるため、一層の有効活用を検討いただきたい。

■NICT

- 光衛星通信は、GEO(静止軌道)や深宇宙からのレーザ通信は可能か。
- 実現性を研究中であり、可能性はある。
- 宇宙データシステム諮問委員会(CCSDS)について、我が国が光通信分野で国際標準化を主導できるよう、取り組んでいただきたい。

(3) 太陽フレア、宇宙天気予報について

資料3に基づきNICTから説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○米国のように、我が国でも宇宙天気の重要性について議論いただきたい。

○国際民間航空機関(ICAO)宇宙天気センターの枠組みへの参加など、NICTの研究の取組と、実利用への活用の両方を進めていただきたい。

(4) 宇宙基本計画工程表の改訂について

事務局から説明を行った。その後、以下のような意見等があった。

○工程表30「部品に関する技術戦略の策定等」について、宇宙関連の知的財産は重要であり、宇宙システムの知財をめぐる世界の動向を把握したうえで、我が国としての取組の方向性を検討すべきではないか。

- 工程表 3 9 「国内の人的基盤の強化」について、宇宙産業分野での人材の流動性を高め、人材規模を拡大するような取組を推進いただきたい。
- 工程表 5 3 「宇宙産業及び科学技術の基盤の維持・強化に向けたその他の取組」について、スペースデブリ対策は J A X A や民間事業者での研究開発も進んでいると理解しているが、国際的なルール作りが重要であるため、引き続き取組を進めていただきたい。

以 上